

食いしん坊イラストレーターの

てくてく 畑を歩く

パート 1

イラストレーター

すずき もも

イラストレーターという絵を描く職業の私が、このような専門誌にエッセイなど載せて良いものかとさんざん悩みましたが、これもご縁と修行するように書かせていただくことにしました。農業と全く別な世界で生きるような私ですが、絵描きも食べなくては生きては行けないし、また食べることに熱心な絵描きの諸先輩も多いのです（かの有名な画家ダリもレシピ本を残しているんです）。例にもれず私もハツと気がつくこと食べ物への関心がとても深くなっていました。きっかけは何だったのだろう。今思い返すと、小さい頃の母の作るなげない食卓がおいしくて温かだったことが自分の食への関心のベースとなり、若い頃に出会った食へのこだわり、の強い友人たちの影響だと思

のです。その中の友人の家に二十数年前に行ったときのことです。初めて玄米を食べてそのおいしさにびっくりしました。新鮮な野菜のお味噌汁・圧力釜で炊き上げた玄米にはゴマ塩や鮭フレークをのせていただきました。決して豪華ではない食事でしたがとても新鮮なおいしさでした。

たった一粒の玄米のおかげで、毎日食べるものへの興味とその素材の見方が変わってきたのだと思います。そうなると思は友を呼ぶではないですが、食関係のいろんな方々と交流を重ねて行くうちに、描く絵も食べ物関係の仕事が増えていきました。

◆

私の中では食べること、すなわち食べたものによって自分の体の一つ一つの細胞を作ってい

すずき もも さん



東京生まれ、北海道育ち

- ・ 広告を中心としたイラストレーション制作、出版、雑貨企画、執筆など仕事は多岐に渡っている。
- ・ 食の世界に足を踏み入れ、パンに焦点を絞って立ち上げた「だい好きパンの会」は今年で13年目を迎え、小さいながらも充実した活動を行っている。
- ・ スローフードに生活のテーマを置き、「北海道スローフードフレンズ帯広」のメンバーとしてスローフード・スローライフの実践を試みている。
- ・ いつか自然豊かな場所で本や絵を描きながら、野菜や花を育てて暮らすことを夢見つつ、夫と娘の3人暮らし。
- ・ だい好きパンの会 事務局長
- ・ 北海道スローフードフレンズ帯広 事務局

◇著書

「さっぽろおさんぽ日和」(北海道新聞社刊)

「おさんぽ日和 さっぽろ近郊 のほほん旅」(北海道新聞社刊)

「パン好きの毎日～おいしい食べ方、作り方～」(ソフトバンククリエイティブ)

北海道の小麦とパン屋さんの本を北海道新聞社より6月下旬に出版予定。

ることにイメージがすぐ繋がります。それは例えばハンバーガーばかり食べていたりすると、自分のからだはハンバーガーでできあがっていることを想像してみてください。ちよつとぞつとしませんか。仕事柄、ヴィジュアルにすぐつながってしまう(この場合牛の部位を示す図のようなのを人体で想像しちゃう訳です)。ここはあのととき食べたラーメン、こちらはケーキ、こっちはサラダ、のように食べた物を自分の体に当てはめてみると、なかなか恐ろしいやら面白いやらです。仕事が忙しくなるとどうしてもいい加減な食生活に陥ってしまうのでふと、どんなもので体が作られているか、食べた物を思いかえしてちよつとドキドキすることも。なので、そんな風に想像することで自分

の意識を高めてるのかもしれない。なるべく北海道産の野菜やできるだけ近海の魚、信用のおける育て方の肉などを積極的に選んで食べるようにしたいと、すべてではないけれど北海道産の細胞によりやく変わってきたかなあと、あの図を想像して楽しんでいきます。

◆ 近年、食材の産地や生産者、また栽培方法なども解りやすくなってきました。消費者もその情報を見て、しっかりと選ぶことができるようになり、生産者との距離が少しずつ縮まってきているように思います。また、産直で購入できる物や道の駅などでも充実してきています。そのような所で買い物をする一方、ただけで生産者の顔が見えるような安心感があり、その作物に生産

者の愛情のような物を感じると、購入した食材をできるだけおいしく食べたいと、無意識に感じているような気がします。帰ってきてキッチンに立つ意気込みが、普段のモチベーションより格段にアップしています。なので生産者の愛情が解る食べ物が愛情のあるお店で買い、愛情か



けて調理した物を楽しくいただく。それがおいしいという喜びになって、細胞の一つ一つに変わって行くと思うと、なんだか元気いっぱい、愛と喜びにあふ

れた体になりそうじゃないですか！ポイントが最後の楽しくいただくです。前述した小さい頃の食卓で母が「ご飯は楽しく食べなくちゃね」と、いつもニコニコ話をしながら食べてたことを思い出します。

◆ ただのイラストレーターだつ

たのが、頭に食いしん坊の冠がついて早十三年。その十三年前には「だい好きパンの会」というパン好きさんのサークルを立ち上げました。「どうしてパン？」なのかと簡単に言えば旅先で食べたパンがあんまりにもおいしくてシヨックを受けたからなのです。そう、二十数年前にちようど玄米のおいしさで食べ物の方、味わい方に開眼した時期に海外にも行つたんですね。そこで食べたいろんなパン

がおいしくて、これまたパンの概念が変わつたのです。今ではいろんなパンが北海道内でも食べられるけれど、ちよつと昔まではパンといえば角食、あんぱんの世界。今まであまりおいしいと思つたことがなかったので、パンのおいしさからパンへの興味はじまつたのです。

その中でもっと身近なところのパンのことが知りたい。と強く思うようになり始めた頃、いち早く道産小麦に目を向け安心なパンを作り続けている「シロクマ北海道食品」の荒川社長と一緒に仕事をさせていただきました。新しく道産小麦のみでパンを作るパン屋さんをオープンしたいということで「れもんベーカリー」の開店のロゴや、チラシなど仕事をさせていただきました。一周

年を迎える頃、荒川社長が一年記念に何かやりたいというので「だい好きパンの会」の設立を提案させていただき、その後自主運営になるまでの六年間を荒川社長の庇護のもといろんな活動をさせていただきました。

この活動の中でパン用の小麦が北海道の中で栽培されていることやその状況、また製粉会社へ見学に行ったり、農家さんの土地を借りてメンバーとハルユタカ小麦を栽培してみたり（これは三年続けました）、パンが農と繋がっていること、食べ物の背景には農業があるということを実際に見て触れて体得させてもらいました。その活動の間北海道に置ける小麦の栽培状況は大きく変化し続けているように思います。パン用の新しい品種の小麦の登場、また栽培地域、

栽培方法などなど確実に広がりを見せているような気がします。

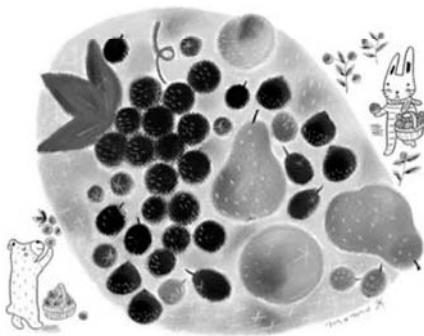
「だい好きパンの会」では、たまに生産者から栽培を始めたこの小麦でパンを焼いてみてはもらえないかという相談や道産小麦の品種別パンの味比べ、また「小麦のことを話そう」ということで生産者、製粉会社、パン屋さん、消費者の六人のパネリストをたて、パンを味わいながら、話しを聞く（話す方々にもパンを食べてもらいながら）パンの会ならではの会を開いたり、普段はサンドイッチの会や通販のパンを食べる会、講師を招きパン作りの会など、楽しい、おいしいをコンセプトに道産の小麦を隠れテーマにおいて、会を行っています。

最近の会では畑作農家さんからとうきびの粉の相談を受け、

日本ではあまりポピュラーではないコーンブレッドの会を開きました。初めて作るコーンブレッドやコーンの粉を多く配合した様々なパンは新しいおいしさで、参加メンバーも生産者も意見が飛び交う有意義な会になったと思います。そんな「だい好きパンの会」を通じて「パン」という狭いキーワードからのぞいた農の世界はとても広く作る、食べるだけじゃない、その前の農業、そして生産者の存在をしっかり教えてもらいました。そこからますます農業のことが知りたくなって、そこに興味をおくといろんなものが見えてきました。

◆
二〇〇〇年に出版された島村奈津さんの「スローフードな人生」をその年に読み、これだ！

と思わず声を上げていました。私の中でバラバラだった様々な思いがスローフードという哲学で一本筋が通った瞬間だったのです。大げさだけど本当に涙が出そうだった。そう思うといても立つてもらえなくていろいろ調べたり、見たり聞いたりすると、同じ頃に同じように思ってた方々が北海道初のスローフードの会を立ち上げたと聞き、即



入会させていただきました。それが「スローフードフレンズ帯広」です。この会の素晴らしい所は生産者も含め様々な職業の人がスローフードの哲学のもと集ってきていることです。もちろんそれぞれの立場も思いも違うけれど同じように何かを感じて集まってきた方々です。いろんなメンバーに会うごとに刺激され、勉強することがいっぱい。四年ほど前からは事務局をお手伝いさせていただくようになり、ますます自分の生き方を含め食の世界にはまっています。

そんな活動が目に触れたのか三年前には北海道新聞社から本の出版のチャンスをいただき一昨年、昨年と本の出版をさせていただきました。街をめぐるガイドの本でしたが、この本はもつとゆっくり、足下を見つめ

て、小さな事柄に幸せを見いだそう。それは地元にある良い物を見つけ大切にしていこう。自分の目線を磨こう。それは食べ物もお店や映画館も公園も同じく一つ一つが街という体を作る細胞と同じだから。より素敵な優しい細胞で街を作って行きたい。という長い隠れテーマのもとに制作しました。

さて、長い自己紹介のようになってしまいました。今回はこの辺で。

今回は本の制作を通して、取材してきた農家さん、近郊の街、札幌のことなど、食いしん坊イラストレーターの目線で書き綴ってみました。と思います。

